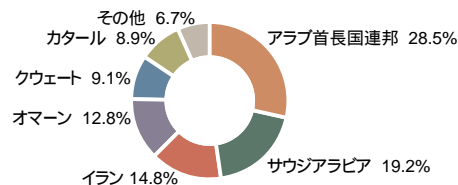


産油国との友好な関係づくりと、 石油の安定・安全供給に取り組んでいます。

日本は、石油資源のほとんどを、中東など海外からの輸入に頼っています。当社は、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、イラン、インドネシア、カタール、クウェートなど複数国から分散して原油を購入することで、エネルギーの安定供給に努めてきました。また、1960年代よりアラブ首長国連邦のアブダビ首長国で原油開発を行い、1968年にはアブダビ石油を設立しました。自主開発原油の当社の引き取り比率は約12%で、民族系の石油会社の中では比較的高い水準を達成しています。

当社2002年度国別原油輸入比率



*1 随伴ガス

油田から原油生産に伴って出るガス。サワーガス、スイートガスの2種類があり、硫化水素およびCO₂などの酸性ガスを多く含むものをサワーガスといいます。

*2 AR油田、GA油田

AR油田：ウム・アル・アンバー油田の略称

GA油田：ニーワット・アル・ギャラン油田の略称

アブダビ石油では、ムバラス、AR、GAの3油田を運営し、これらから生産する原油を混合して「ムバラスブレンド」として出荷しています。

産油国アブダビでの活動

当グループは、1960年代から、アブダビ首長国を中心とした産油国との友好的な関係づくりを推進し、現在、日本アラブ首長国連邦協会の副会長を努めているほか、国際親善だけでなく人材派遣、技術提供、文化紹介などを積極的に行っています。

2002年度は、日本貿易振興会の主催による環境をテーマにした展示会「ジャバントゥeday・イン・アブダビ」に出展を行いました。当社は、原油開発からサービスステーションに至るまでの一連の環境保全活動への取り組みを紹介するとともに、グループ各社の環境対応技術や商品を展示しました。3月31日の開会日には、経済商業省のファヒム・ビン・スルタン・アルカシム大臣の列席のもと、盛大に開会式が行われ、閣下は当グループの展示を熱心にご覧になられました。



「ジャバントゥeday・イン・アブダビ」のファヒム・ビン・スルタン・アルカシム大臣

アブダビ石油の活動

当社の子会社であるアブダビ石油は、18の国籍の従業員約140名(内日本人は約50名)と常時契約社員を合わせた約320名で操業を行っています。安全な操業のために、緊急時の連絡系統の確立や、オイルフェンスなどの防災設備の充実を図っているほか、2002年度は、HSE(Health Safety & Environment)マネジメントシステムの



アブダビ石油のオフィス

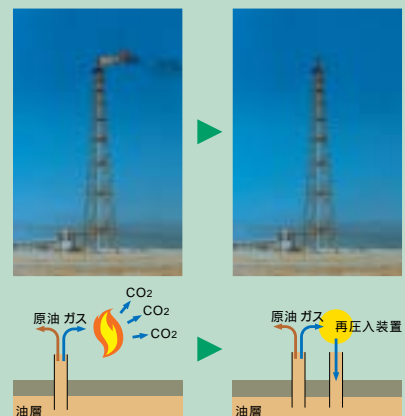
構築を完了しました。また、同社は、アブダビ日本人会の中で中核的な役割を果たしています。

ゼロフレアプロジェクト

世界の油田施設で見られるオレンジ色の炎(フレア)は、原油生産時の随伴ガス^{*1}を燃焼させているもので、これによりSO_xやCO₂など、多くの環境負荷物質が大気中へ排出されています。

アブダビ石油およびその関連会社が運営している、ムバラス油田、AR油田^{*2}、GA油田^{*2}では、それまで大気中で燃焼させていた随伴ガスを大型コンプレッサーで地下の油層に全量再圧入することにより、SO_xやCO₂の排出をなくする「ゼロフレア化」を2001年5月に達成しました。このプロジェクトの完成は、アブダビ首長国における大気汚染防止に貢献するだけでなく、年間20万トンのCO₂相当量の温室効果ガス削減につながっています。

ゼロフレア・プロジェクト



マングローブの植林

アブダビ石油では、地域社会の環境保全にも力を入れています。マングローブの植林をはじめ、生活排水を浄化装置でクリーン化し、ムバラス島で植栽されている木々に散水するなど、地域の緑化に努めています。



アブダビ石油が植林したマングローブ林

原油輸送

原油は、タンカーによって、マラッカ海峡を經由し、日本まで運ばれます。20万トン級のタンカー-VLCC (Very Large Crude Carrier)が1回、約20日の航海で輸送できるのは、日本全国の消費量の1/3日分です。

安全な輸送のために

航海の最優先事項は、あくまでも「安全」です。VLCCでは、選抜された経験豊富な船員が運航業務にあたっているほか、危険海域や厳しい気候条件下の航行に備えるために、衝突防止装置をはじめとする最先端のテクノロジーが搭載されています。

また、万が一の流出事故に備えて、1998年より、タンカーのダブルハル化^{*1}を進めています。2003



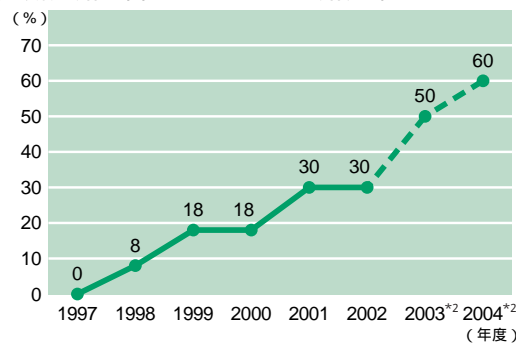
原油の流出を未然に防ぐダブルハルタンカー

年3月末現在、定期用船10隻中3隻にダブルハルタンカーが導入されており、2004年度には、10隻中6隻がダブルハルタンカーに更新される予定です。さらに、タンカーからの積み降ろしの際には、オイルフェンスの使用を徹底するなど、海洋の環境保全のためにきめ細かな配慮を行っています。

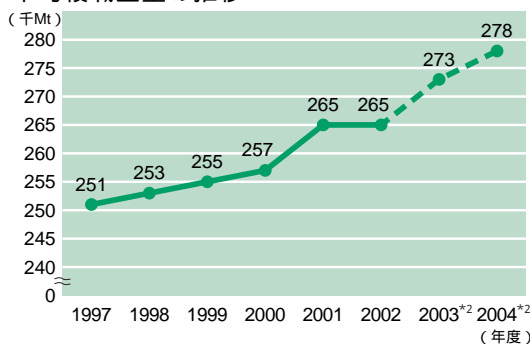
輸送の効率化

輸送の効率化を図るために、20万トン級タンカーから30万トン級タンカーへの大型化や、新日本石油(株)と設立した日本グローバルタンカー(株)での共同運航により、スケールメリットを活かした用配船・運航の効率化を進めています。

定期用船に占めるダブルハル船比率



平均積載重量の推移



石油の備蓄

日本では、緊急時の安定供給に備え、石油輸入・精製業者に70日分の石油製品の備蓄が義務づけられており、2003年3月末では、78日分が備蓄されています。また、石油公団でも5千万キロリットルの原油を備蓄しています。これは、91日分に相当し、民間分と合計すると169日分になります。

*1 ダブルハル船(二重殻船) 船体を二重構造にすることにより、事故が起きた場合にも、油が流出しない仕組みの船。

*2 2003-2004年度は予定。